

ある方には、
すべての動物が
見えていません。



オリジナルモード

「その情報は伝わっていますか？」

MEDIA UNIVERSAL DESIGN

メディア・ユニバーサルデザイン



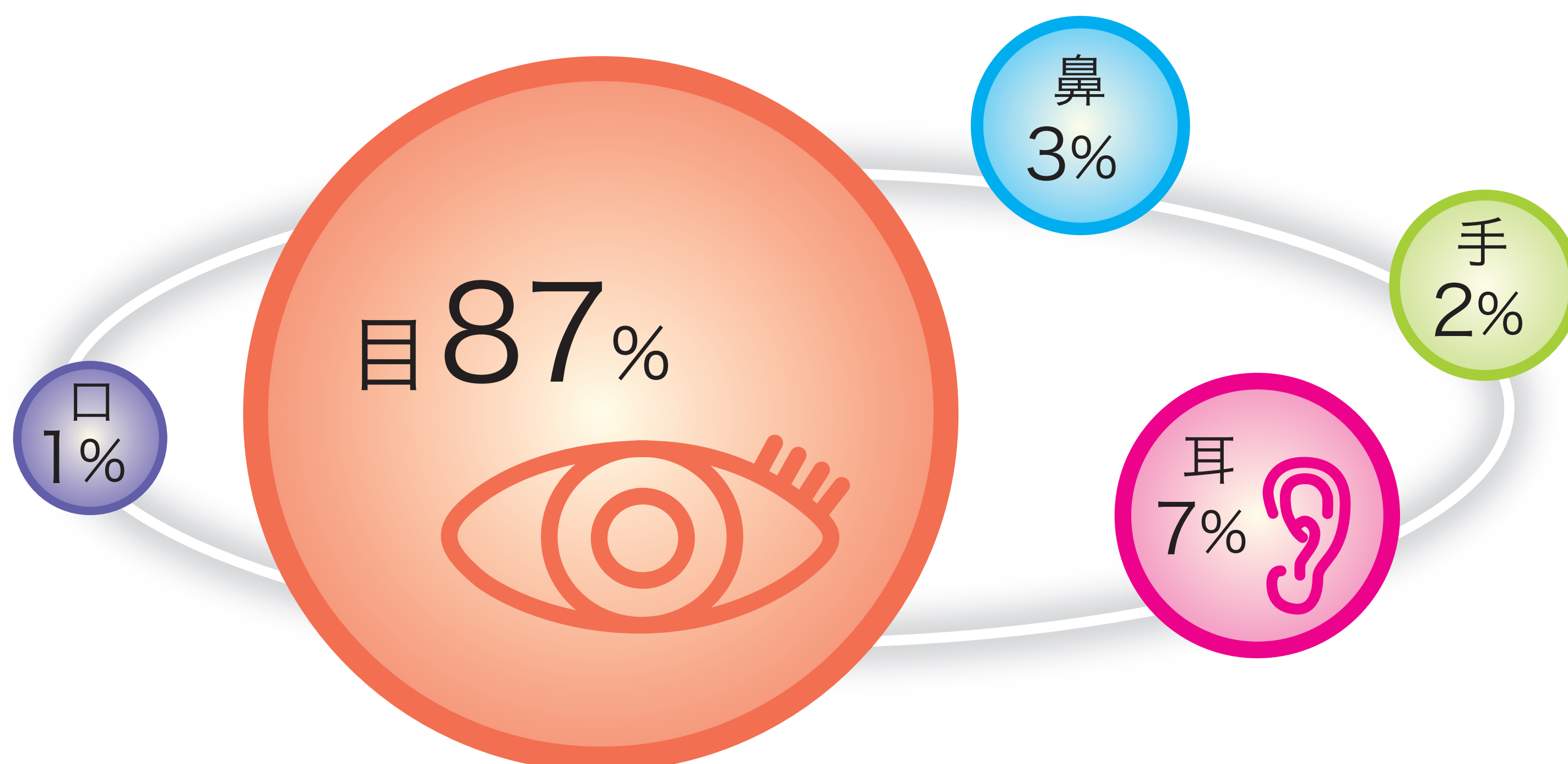
大阪府印刷工業組合

すべての人に最適な視覚情報を！

情報の 80% 以上は視覚から。

重要な情報を誰もが受け取れるように！

情報受信における視覚の役割



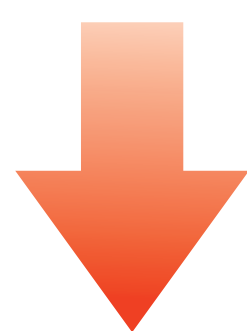
視覚メディアに対する不満



情報伝達分野においても、 ユニバーサルデザインを！

視覚メディアの配慮不足で情報が伝わりにくい人がいます

色覚障がい者の見え方



色覚障がい者の
シミュレーション



色覚障がい者の
シミュレーション



メディア・ユニバーサルデザインとは

- ・ 伝えたい情報を正確に伝える
- ・ 平等に情報を伝える【一般の人・高齢者・障がい者（弱視、色覚障がい等）・子供・外国人など】
- ・ 必要とされる情報を提供する
- ・ 誰もが便利で見やすいメディアを提供する



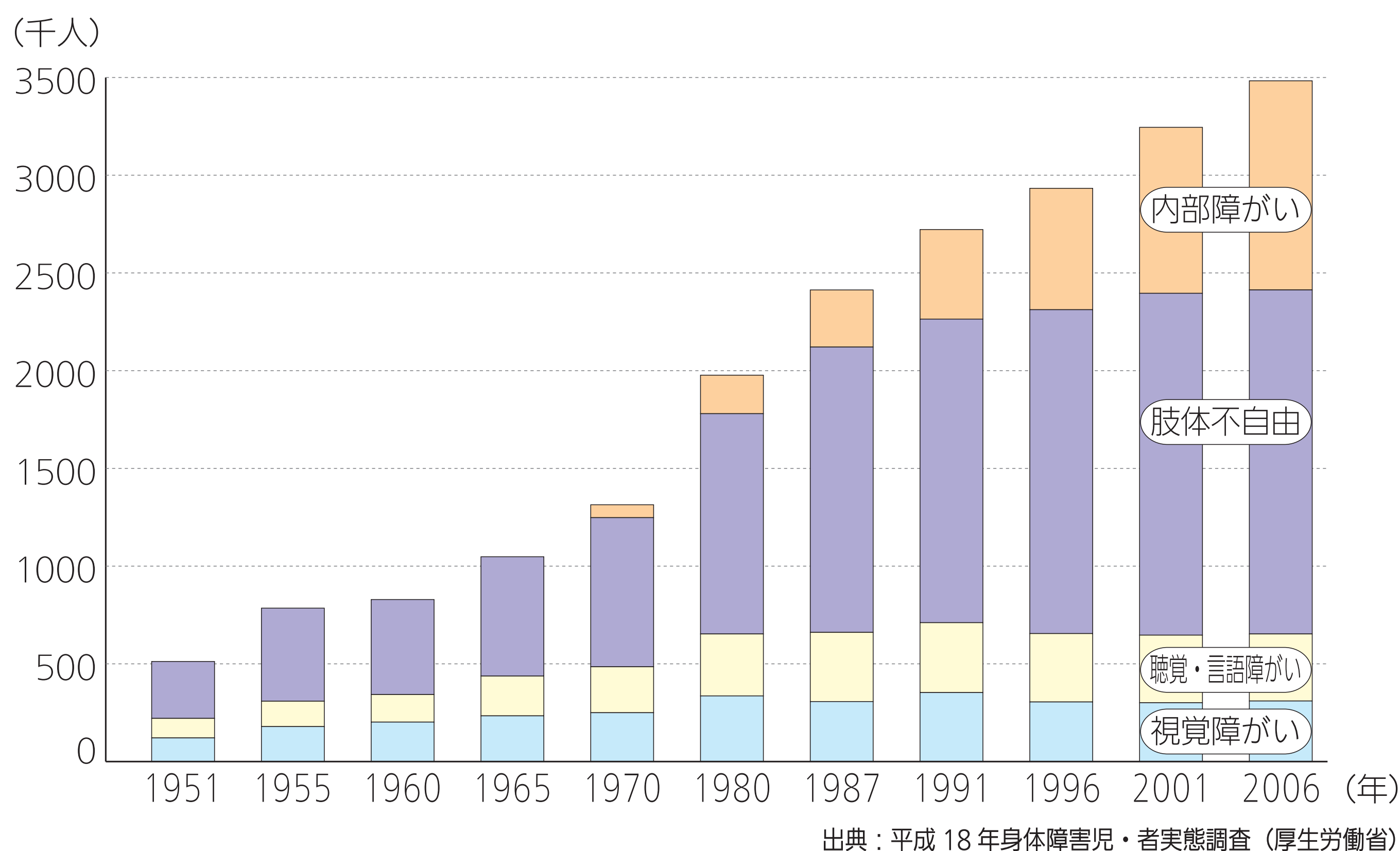
大阪府印刷工業組合

情報受信のハンディキャップ ①

障がい者 約 350 万人

障がい者（肢体・聴覚言語・視覚）は約 350 万人

障がいの種類にみた身体障がい者数の推移



障がい別のメディアにおける配慮

肢体障がい

必要な情報が、一般の人と違う場合がある
移動情報や施設情報などには配慮が必要

聴覚言語障がい

情報伝達手段に配慮が必要

視覚障がい

字体、文字の大きさなどに配慮が必要



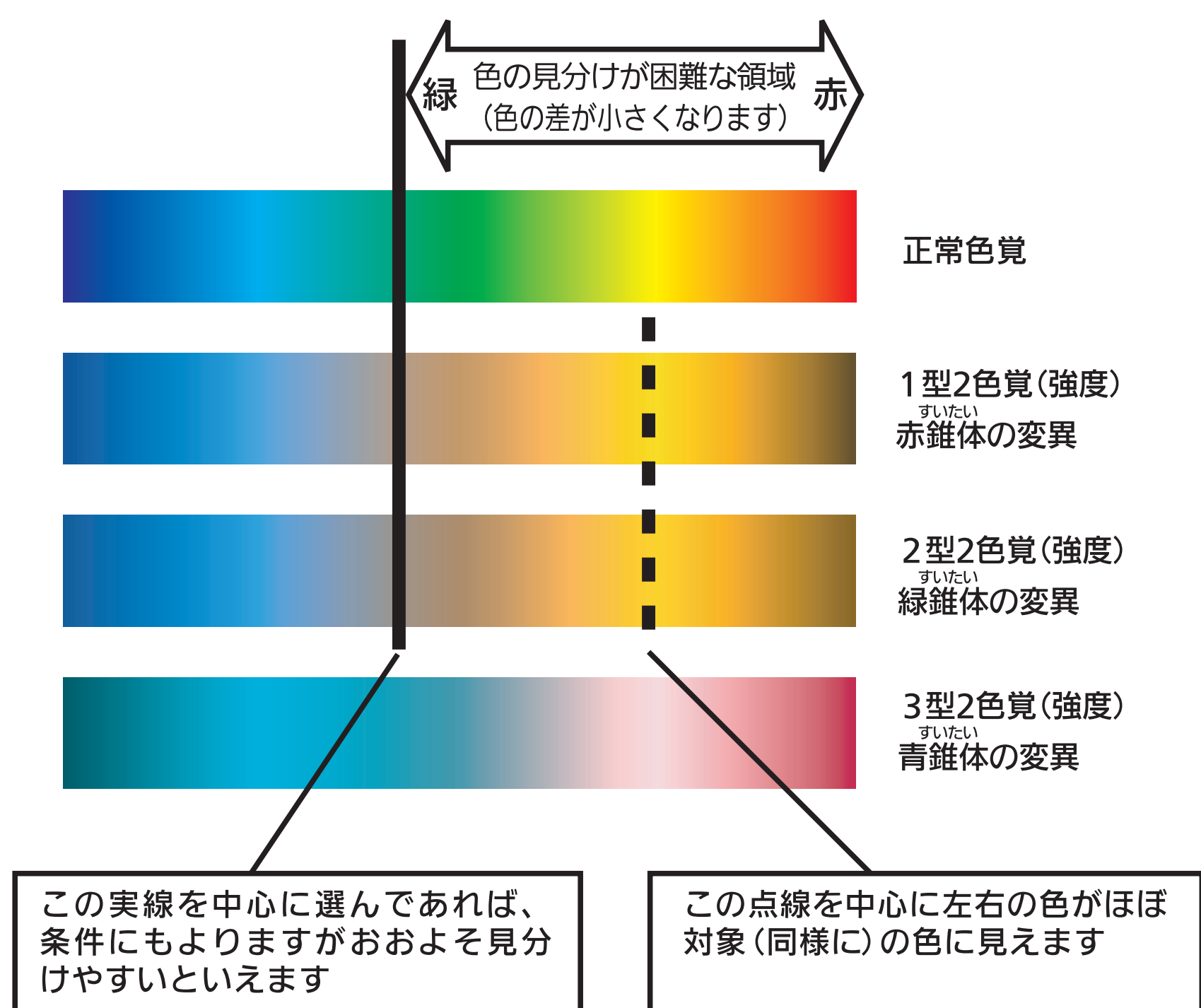
大阪府印刷工業組合

情報受信のハンディキャップ ②

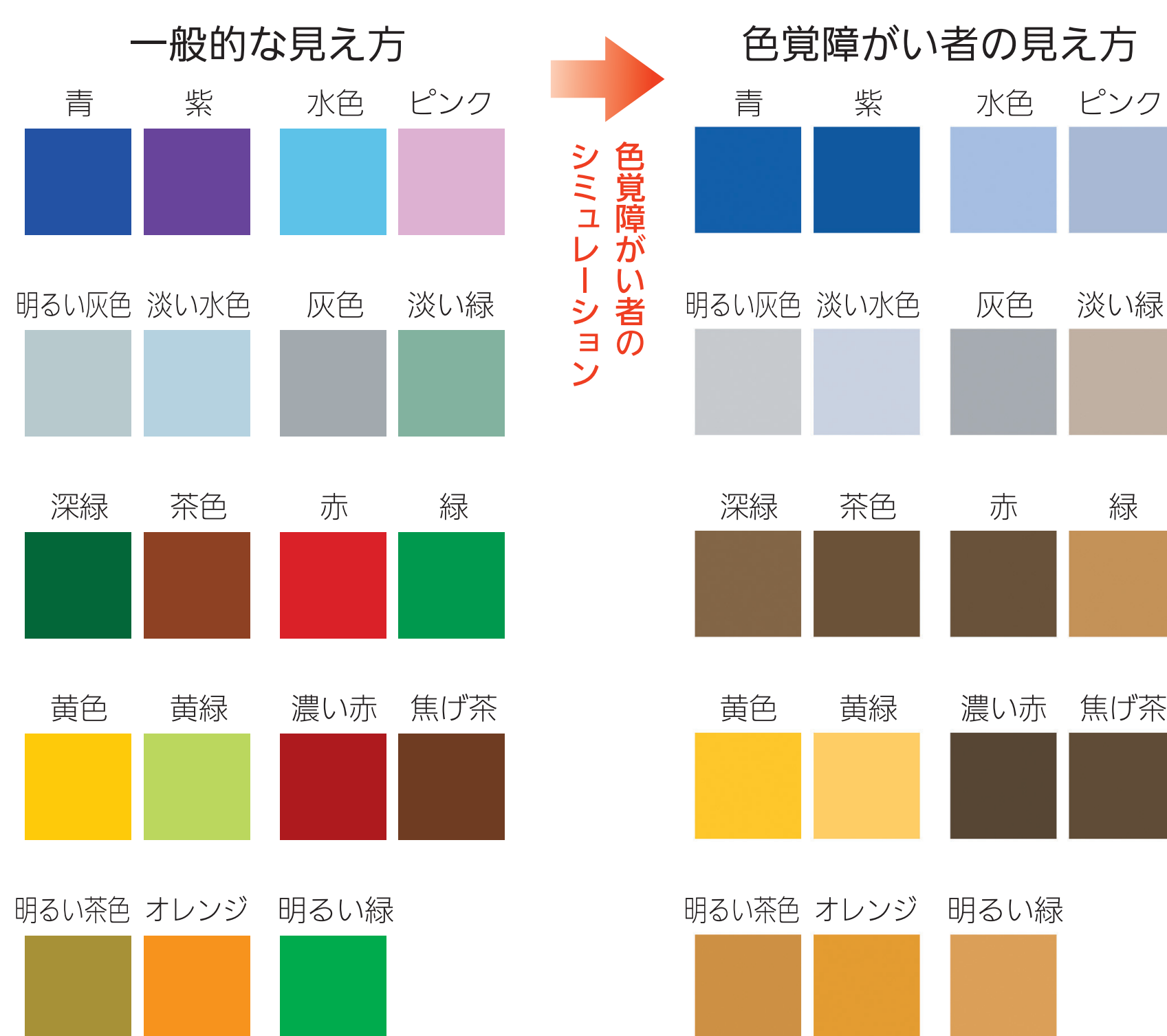
色覚障がい 約 320 万人

日本人男性の約 20 人に 1 人、女性では約 500 人に 1 人、日本国内に約 320 万人以上。色の使い方に配慮がたりないと、伝えるべき情報が伝わらない場合がある

色覚タイプによる色の見え方のシミュレーション



色覚障がい者の色の見え方の一例

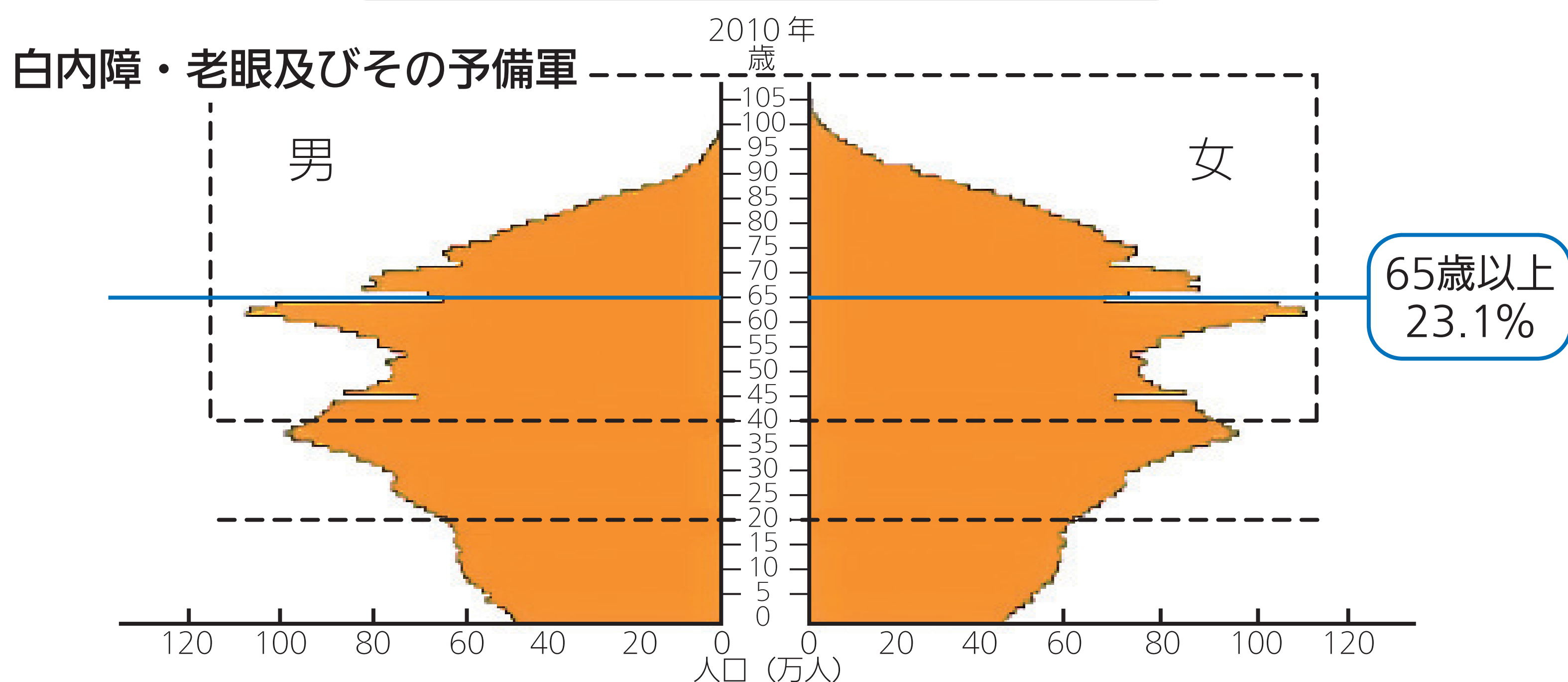


情報受信のハンディキャップ ③

高齢者(65歳以上) 約 2,898万人

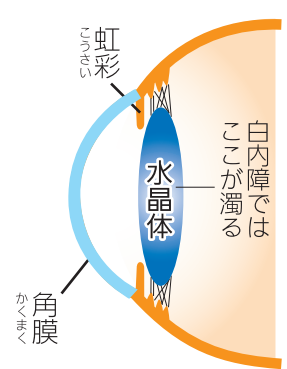
加齢により視覚・色覚は衰えていきます。40代から白内障になる人が増え、80歳・90歳ではほとんどの人に白内障の症状が現れます。文字の大きさや、書体、識別しにくい色に配慮する必要があります。

2010年の人口ピラミッド



出典：国立社会保障・人口問題研究所

白内障患者の見え方



白内障は、カメラのレンズにあたる「水晶体」が濁り、「目がかすむ」「二重に見える」などの症状があらわれる。黄と白、紺と黒などが見分けづらくなる人が多い。

白内障・弱視者の見え方



白内障・弱視シミュレーション



白内障や弱視の人は、明度差のない配色はとても見づらいようです。明度の高い黄色は白との見分けも難しくなります。

白内障・弱視者の見え方



白内障・弱視シミュレーション



コントラストに差をつけることで、高齢者などにも識別しやすくなります。

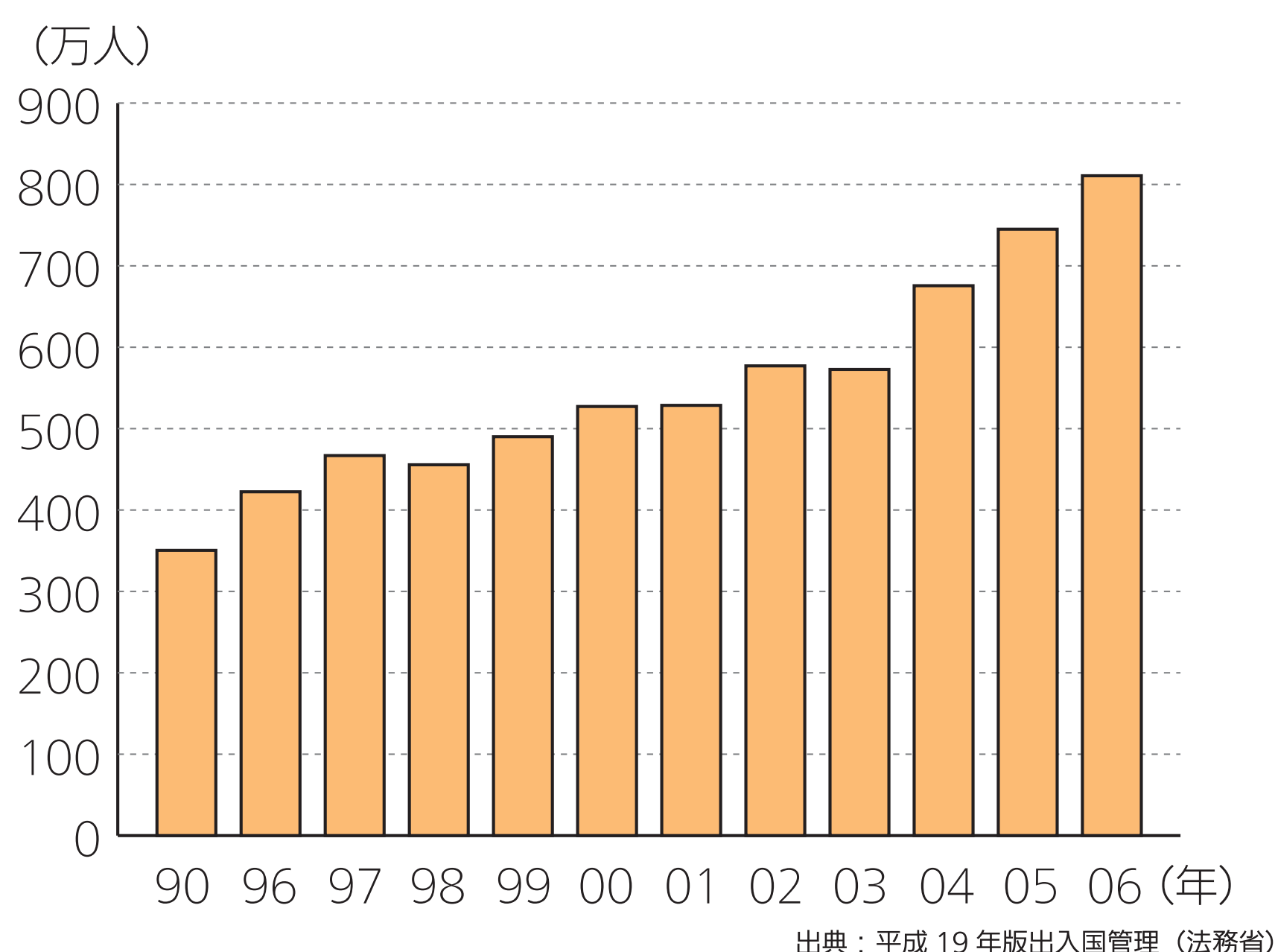
情報受信のハンディキャップ ④

外国人・子ども 約 800 万人(外国人入国者)

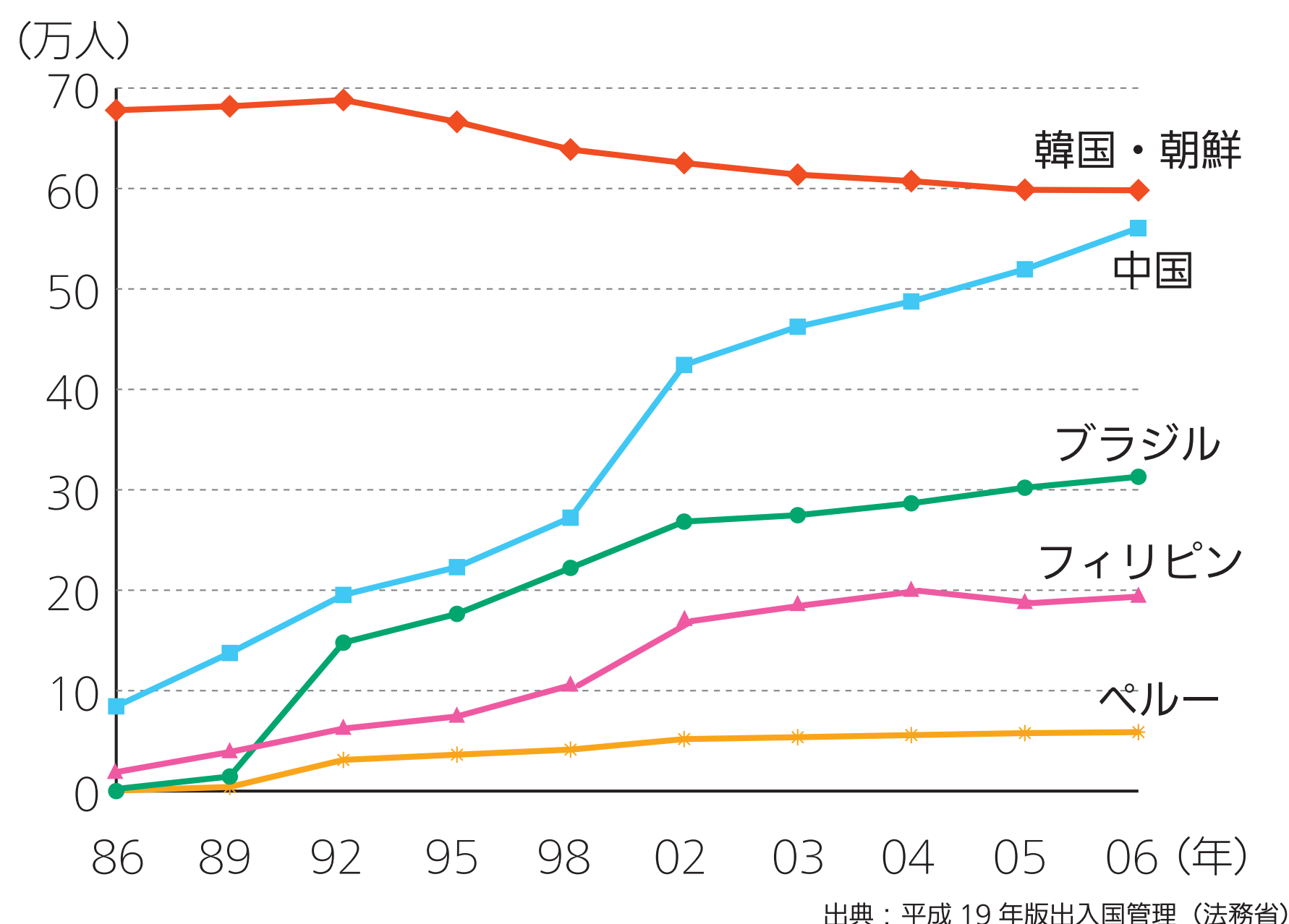
日本滞在する外国人が年々増加しています。

外国人・子どもは、難しい漢字や表現では理解しづらいため配慮が必要です。

外国人入国者数の推移



主な国籍（出身地）別外国人登録者数の推移



外国人への配慮

- 15 西郷銅像下公衆便所** Public restroom beneath the statue of Saigo
사이코동상 밑
西郷銅像下



- 16 台東区役所各階西口** Taito ward office west exit on every floor
다이토구청 각층 서쪽
台東區役所各樓西口



増加している外国からの観光客や就業者に配慮し、多言語表示にしています。また、言語に頼らずとも内容が理解できるピクトグラム(マーク)を用いています。



大阪府印刷工業組合

日本国内で情報受信に ハンディキャップのある人が



にいます。



65歳以上の
高齢者 約**2,898**万人

弱視者 約**100**万人

色覚障がい者 約**320**万人

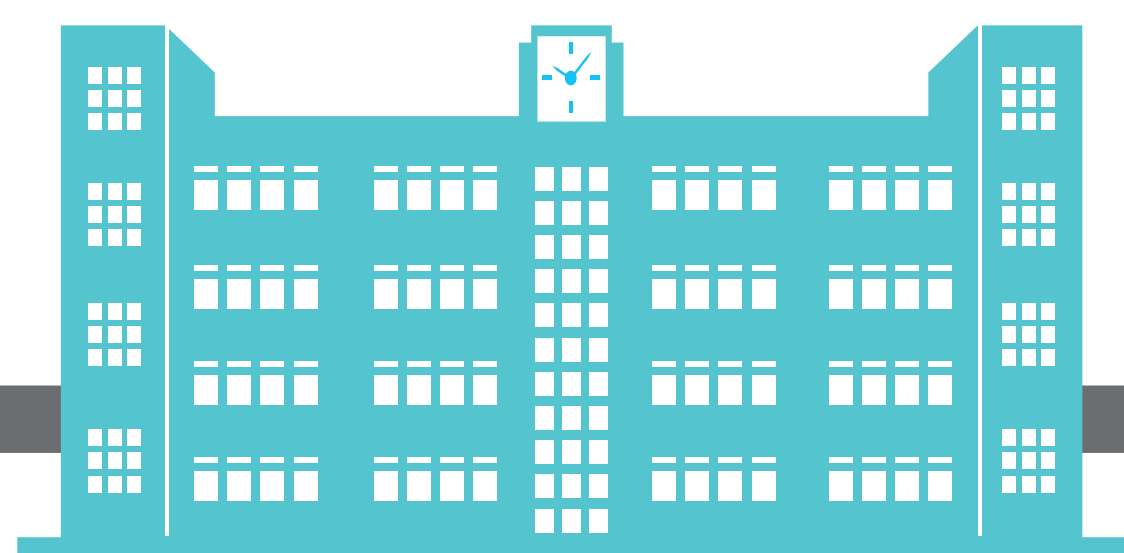
身体障がい者 約**350**万人

外国人入国者 約**800**万人

MUD が特に必要とされる機関

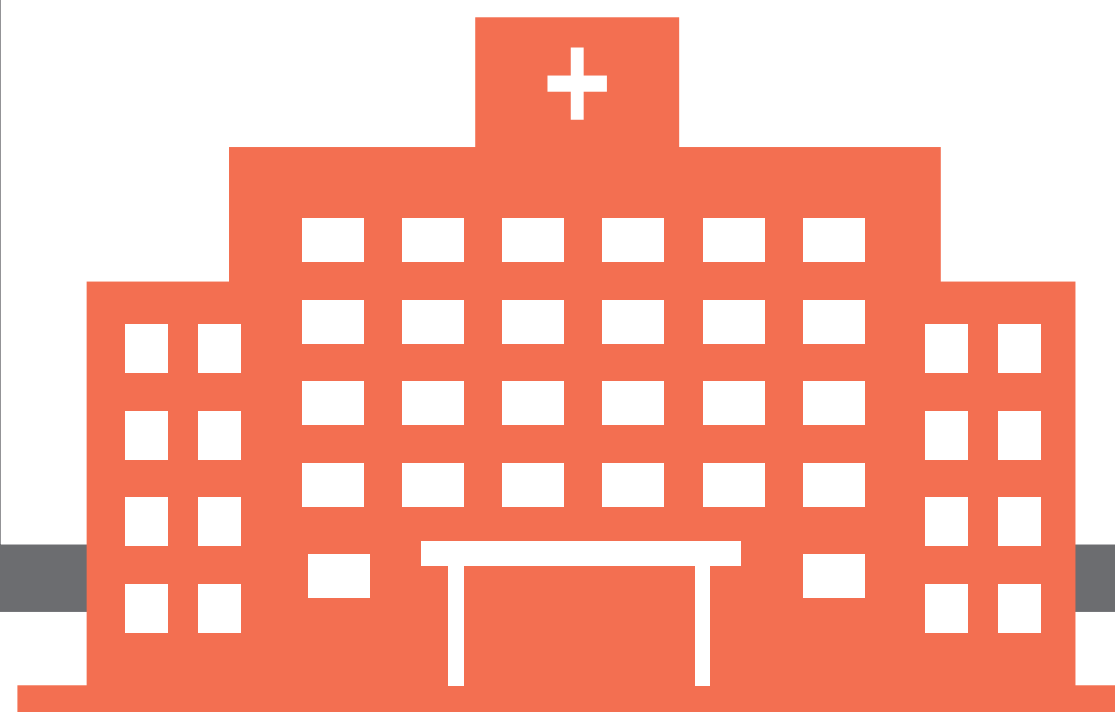
教育機関

教育機関、
出版社、
教材メーカー、
玩具メーカー



公共性の 高い機関

官公庁、公共交通機関、
新聞社、
電力・ガス・水道、
病院、公共施設



危険、用法の 告知機関

薬品、食品、
機器の取扱、
建築・製造現場、
標識類、
ハザードマップ類



情報の公平性が 求められる機関

企業のIR情報、
金融機関、
生保・損保会社



メディア・ユニバーサルデザインを 実践するための 5 原則！



1 アクセシビリティ accessibility（接近容易性）

見えない・読めないなど、情報の入手を妨げる要因を取り除く工夫が必要です。たとえば高齢者に対しては、明度差をつけた配色を行うと有効です。

●色覚障がい者への配慮



2 ユーザビリティ usability（使いやすさ）

より快適・便利に使える使いやすさの工夫が必要です。施設の案内図にトイレの表示をする際、その形状や付近のアクセスの情報があれば障がい者にとって便利です。

●情報をプラスして肢体不自由者への配慮



3 リテラシー literacy（読めて理解できる）

内容がより理解しやすい表現や構成による工夫が必要です。平易な言葉づかいは子どもや外国人に、カタカナ語を不用意に使わないことで高齢者にもわかりやすくなります。

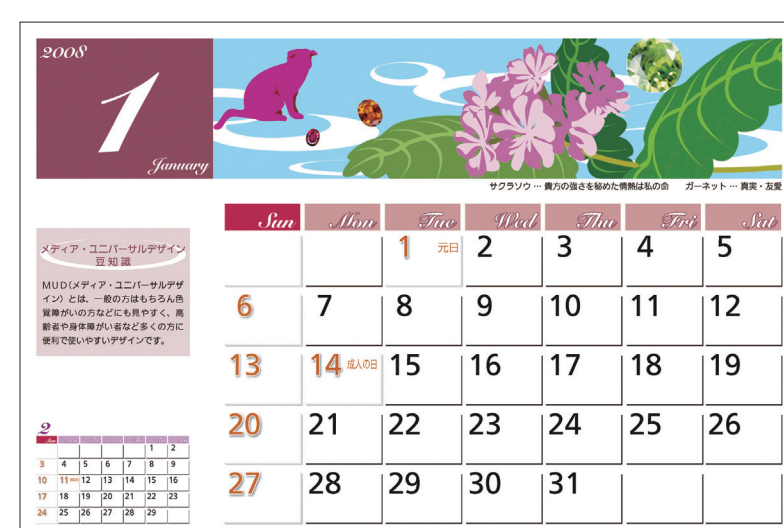
●多言語、ピクトグラム表示



4 デザイン design（情緒に訴える）

情緒に訴え、行動を誘発するデザインによる工夫が必要です。メディア・ユニバーサルデザインはデザイン性が高いことと矛盾しません。

●配色とデザインへの工夫



5 サステナビリティ sustainability（持続可能性を満たす品質であること）

実現するのに過大なコスト負担がなく環境へも優しいものである必要があります。将来にわたって長く使用し続けられることが大切です。

●代表的なサステナビリティへの配慮

